

**中歌**

三川指導部

町佳郎

三月十七日三月十四日、坑底で命奪われた一人のなかまの靈前に捧げる。

炭窓で逝きし坑夫の抗議だと一時間五十分のスト指令出づ

炭窓にもまれし坑夫の無惨な屍体はなべて碎かれしと

毛布にてつまれ揚れる坑夫の屍体足折れ曲り人形のひと

重き事故起らずば醒めず日々に必ず違反運転がに犯のえん

守るべき保安とはただの空言か死して初めて問とならへる

## 再び帰つてこない命

### つくづく思う判決の重み

島主婦会長

上村裁判勝利のあとをうけて、その日三井鉱山前で開かれた「裁判勝利報告集会」の席上

三池主婦会の島枝会長は、よろひと懲しみを織りませながら次のようにうつたえました。

今日、判決を伝える裁判長の言ふことに思い当たり、胸の底から葉を聞いていたところ、「わいふとよのひがじみあけてきまつた。あれ。これは私たちの方の証言ではないか」と、わが耳を疑ひたくさえなりました。

半信半疑でそこに出でから、やがてともにしたことを思ひ出します。あのとき、私もまた三四三晩とばかり完全勝利がうそでなかったいえます。

いうもの、上村さんの櫻の前で通じかなかつた。

いまは、小学一年生です。そのこと、私が、こゝとの判決のもの重みと

いたくさえなきました。

でも、勝つたからといって、上

村さんは帰つてほこられません。

私は思います、勝利とはいつた

いなんのだろうか、と。

ご遺族にとって過去の七年間といふものは、ほんとうにお苦しい

闘いだしたことでしょう。

でも、二度と帰つてこない命

を考えますと、ほんとうの勝利を手にできるのは、まだまだです。

苦しく鬱いを積みあげていなければならぬのだが、とつくづく思ひます。

判決の日、ひとり子の幸枝ちゃんは、相変わらず天眞爛漫ぶりを發揮して



## 粕漬の思い出

主婦会新港(港務)竹林サヨ

決して

悲鳴を

からね

【音】

いつかは、萬円生生活が始まったのです。  
『頑張ろう、平和で住み良いた。』  
三池大爆破裁判、九・二八裁判にいた社会をつくるまで  
はまると、助け合う仲間はみんな苦しめた。それを補うために、常に食卓に用意しておきました。

判決の日、ひとり子の幸枝ちゃんは、相変わらず天眞爛漫ぶりを發揮していました。

### この連帯を大切に

時移り入変われば、三池労組の暖い指導理念は、一貫して三池炭

本の合理化のために犠牲にされた、千二百名の活動家の首

切りを撒きさせる闘争の頃のこと。

私たちの主婦会も、組合とともに家族ぐるみで闘った。

それが十五年前、三井資本の合理化のために犠牲にされた、千二百名の活動家の首

切りを撒きさせる闘争の頃のこと。

そんなとき、育ち盛りの子供たちに、少しでも栄養のつ

くものを食べさせようと、貰ふ物は安い所だと、遠い所ま

でつれだつて行ったもので

ある。そしておひいきに隣りに

高木と向う計画です。

会社の計画や安全の問題について、去る1月2日説明会が開かれました。

五十名をこえる参加者は、会社

## 卒業式のシリーズ 三月のくらし

生 活

三月のくらし

千葉県市川市北方町一の四の四、三電庄にお住までの「田代さんから、沖三川指導部長へ。

梅咲くや故郷の景まなむ

×

四、三電庄にお住までの「田代さんから、沖三川指導部長へ。

梅咲くや故郷の景まなむ

×

四、三電庄にお住までの「田代さんから、沖三川指導部長へ